

凡例

- * 引用文の中における傍点（・）や太字の強調は、ことわりのないかぎり引用者によるものである。ただし、本文中の傍点（、）は文章作成者による。
- * 説明や補足は文末に注としてほどこし、引用の出典は原則として本文のなかに示した。
- * < > は強調、「」は引用やテキスト名、『』は長編・短編名を記すものとして使用した。
- * 夏目漱石のテキストとして、岩波書店刊『漱石全集』1993年度版を使用した。
- * 以下、各章の基になった論文の初出や投稿状況、執筆時期を記しておく。

序、一章、二章、三章 書き下ろし。(2003・3)

四章、五章 2002・春から夏執筆。

六章 『国文学研究』104集、1992・6(1991・12 - 口頭発表)

七章 『日本近代文学』58集、1998・5(1996・5 - 口頭発表)

八章 『日語日文学研究』31輯、1997・12(1997・6 - 口頭発表)

九章 2002・春執筆。

十章 『日語日文学研究』34輯、1998・6(1997・12 - 口頭発表)

十一章 1997年執筆。

十二章 1997年執筆。

十三章 『韓国日本学報』49集、2003・3(2002・2 - 口頭発表)

十四章 『韓国日本学報』44集、2000・6(2001・2 - 口頭発表)

十五章 『日本近代文学』64集、2001・5(2000・10 - 口頭発表)

十六章 『文学年報』創刊号、2003・5(予定、2002・2 - 投稿)

十七章 アメリカにて単行本所収予定(2000・12 - 投稿)

十八章 『韓国日本学報』32輯、1994・5(1994・2 - 口頭発表)

十九章 書き下ろし。

以上、約890枚。